

第3学年 英語

【相手の立場に立って、具体的な提案をしながら申し出たり応じたりする姿】をイメージした授業

二本松二中 武田 由香理

1 本単元における夢中になって学ぶ姿

時間	場面	学習活動(夢中になって学んでいる姿)	資質・能力等
1	考える	・ラジオの災害情報を聞いている。	・災害情報を表す文章を聞いて、指示されている概要や詳細な情報を聞き取ったり、捉えたりしている。(思・判・表)(主)
2	見通す 対話する	・防災への意識を高めるために、外国人市民意識調査とその結果について書かれた文章の概要を捉えたり伝えたりしている。	・外国人市民意識調査とその結果について書かれた文章の概要を捉えたり伝えたりしている。(思・判・表)(主)
3	習得する	・間接疑問文の形・意味・用法を理解している。	・「間接疑問文の形・意味・用法」を理解している。(知・技)
4	対話する	・防災の意識を高めるために、どこにあるか、どのように行動するかなどを教えてほしいと依頼している。	・防災の意識を高めるために、どこにあるか、どのように行動するかなどを教えてほしいと依頼している。(思・判・表)(主)
5	習得する	・SVOO(what節)の文の形・意味・用法を理解している。	・世界の偉人について、情報をたずねたり伝え合ったりしている。(知・技)
6	考える 対話する	・防災・安全への関心を高めるために、日本で地震にあった外国人の体験談について書かれた文章の要点を捉えたり、どのような人かを説明したりしている。	・防災・安全への関心を高めるために、日本で地震にあった外国人の体験談について書かれた文章の要点を捉えている。(思・判・表)(主)
7	習得する	・現在分詞の形・意味・用法を理解している。	・「現在分詞の形・意味・用法」を理解している。(知・技)
8	考える 対話する	・地域の一員として防災に取り組む意識を持つために、外国人支援の取り組みについて書かれた文章の要点を捉えたり、説明したりしている。	・地域の一員として防災に取り組む意識を持つために、外国人支援の取り組みについて書かれた文章の要点を捉えている。(思・判・表)(主)
9	習得する	・過去分詞の形・意味・用法を理解している。	・「過去分詞の形・意味・用法」を理解している。(知・技)
10	考える 対話する	・防災への意識を高めるために、標識が何を意味しているかについて、話したり書いたりしている。	・防災への意識を高めるために、標識が何を意味しているかについて、話したり書いたりしている。(思・判・表)(主)
11 本時	考える 対話する	・困っている相手に対して、状況に合った手助けができるように、相手の立場に立った具体的な提案を申し出たり、相手からの質問に答えたりしている。	・困っている相手に対して、相手の立場に立った、具体的な提案をしたり、質問に答えたりしている。(思・判・表)(主)
12	考える 対話する	・選挙と投票について考えを深めるために、投票率に関する資料から読み取った情報を伝え合ったり、身近な話題について公約を考えて発表したりしている。	・選挙と投票について考えを深めるために、投票率に関する資料から読み取った情報を伝え合ったり、身近な話題について公約を考えて発表したりしている。(思・判・表)(主)
13	考える	・ニュースなどのテレビ番組の音声聞いて、概要や要点を聞き取っている。	・自分の言葉で説明できるように、ニュースや国の紹介のテレビ番組を聞いて、概要や要点を捉えようとしている。(思・判・表)(主)

2 本時における研究の視点

視点I【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

① 既習事項なども使いながら、相手の立場に立った具体的な提案を考える。

○ 既習事項を用いた本文を、役割を交代しながら繰り返し練習する。



② 生徒にとって身近な場面設定を行い、目的や場面、状況によって、適切な表現を選択・使用できるようにする。

○ 身近な3つの場面設定を行い、目的や場面、状況によって、どのような申し出ができるかを考え、ペアでやりとりをする。



・タクシー乗り場を探している
・券売機の使い方がわからない
・公園で迷子になっている

○ 友達の発表を聞いて、どのようにすればもっと伝わりやすい申し出になるか、ペアで修正しながら再度取り組む。

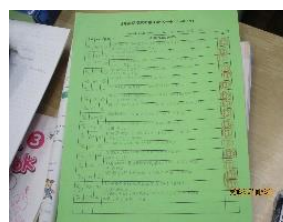


視点II【学びの連続性につながる振り返り】

<振り返りの視点>

- ①何が分かったのか
- ②どんな場面で活用できるのか
- ③新たに知ったこと
- ④次にどんな学習をしたいのか

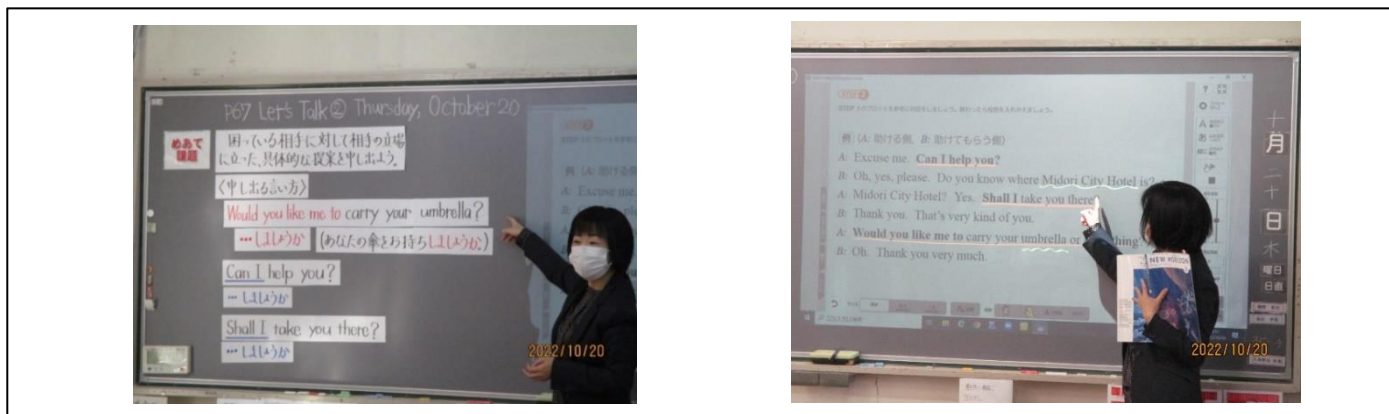
<生徒の振り返りから>



「人を助けるときに使う英語がわかったので、実際にやってみみたいです。」

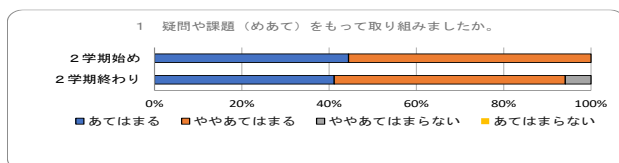
「友達の表現を参考にしながらやってみると、前よりも伝わりやすくなった。」

★板書を創る【本時のねらいに基づいた板書案の作成】

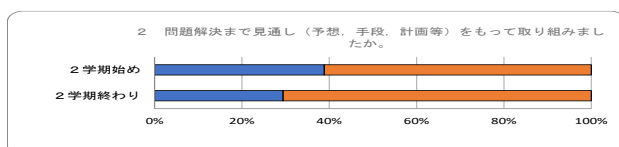


3 アンケートの結果から

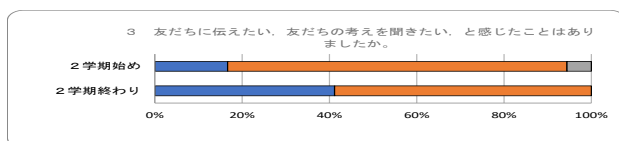
① 関心・意欲，課題意識



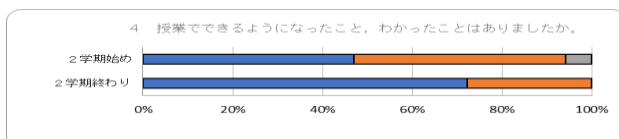
② 見通し



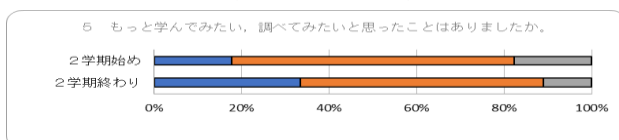
③ 話し合い・学び合い（協働の学び）



④ 振り返り



⑤ 新たな学びへ（学びの連続性）



4 考察【○成果 ●課題と改善策】

【視点Ⅰ】

- 既習事項の中に提案や申し出の言い方があることを確認したことで、すぐに活用ができたと思われる。
- 生徒にとって身近な場面設定をしたことで、目的や場面、状況によって、どのような表現を用いて申し出ができるか考えて、やり取りができていることも多いように見られた。
- ペアの発表では、簡単なものから難しいものへと順番に指名したことで、生徒は内容を理解しやすくなったように思われる。

- 級友の発表を聞いたことで、どうすれば相手を意識した申し出になるか、伝わりやすさを意識して、再度取り組み改善している様子が見られた。
- 既習事項の確認に時間がかかりすぎてしまい、STEP3の活動をする時間を十分に取ることができなかった。既習事項の確認や本文の意味などポイントを絞って授業を行い、時間をかけて行いたい活動ができるようにしていく必要がある。

【視点Ⅱ】

- 振り返りの視点を提示したことで、その視点に従って振り返りをするようになってきた。
- 友達の振り返りを聞いたことで、自分が書いた振り返りと比較することができ、次はどんなことをしてみたいかを考える機会となったように思われる。
- 振り返りをする時間を十分に取ることができなかった。授業の中に振り返りをする時間を確保できるように、学習内容を精選していく必要がある。

【その他】

- なかなか挙手することができない生徒がいるので、same opinion, same ideaなどの教師の呼びかけに反応することで、自分の活動が認められたと実感できたと考えられる。
- 自由に相手を見つけて、活動をさせてもよかった。いつもと違うペアでやり取りを行うことで、新鮮さがあり、協力してやることでさらに楽しく活動ができたように思う。

実際の指導案はこちらへ